

平成17年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 イトヒキダラ

学名 *Laemonema longipes*

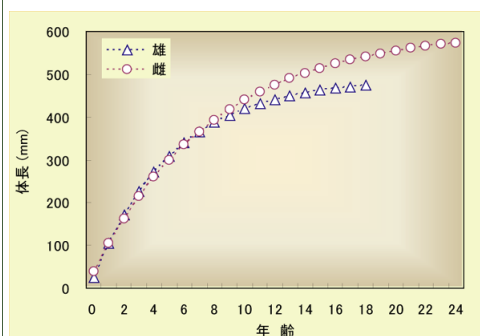
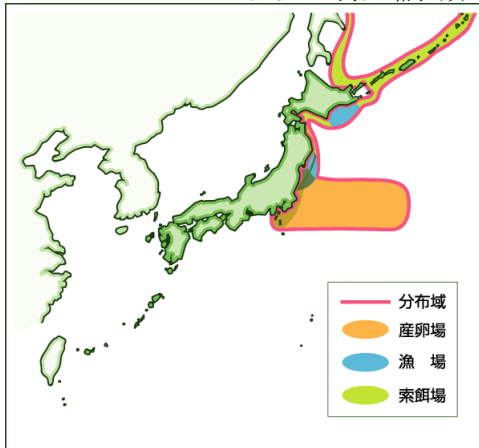
系群名 太平洋系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命: 雄18歳、雌24歳程度
 成熟開始年齢: 雄5歳、雌7歳程度
 産卵期・産卵場: 2～4月、本州関東・東北南部沿岸～本州東方の沖合域
 索餌期・索餌場: 周年、本州関東沿岸以北の陸棚斜面域(水深300～1,500m)
 食性: オキアミ類や橈脚類などの甲殻類およびハダカイワシ科魚類など
 捕食者: ムネダラなどの大型ソコダラ類やオットセイ、マッコウクジラ、ツチクジラなどの海産哺乳類

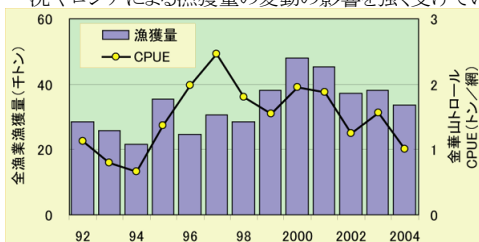


漁業の特徴

1990年代以降に主対象魚として漁獲されるようになった本種は、主に沖合底びき網漁業によって漁獲され、道東では釧路、東北では石巻で水揚げされている。スケトウダラの代替で練り製品の原料として使われており、漁獲圧はスケトウダラやその他魚種の漁獲状況によって変化する。また、ロシアに対し日本水域内における漁獲量が割り当てられており、近年はロシア船による漁獲量が増加している。

漁獲の動向

近年の日ロ両国の漁船による漁獲量は1992年が29千トン、1993年が26千トン、1994年が22千トンと徐々に減少した。その後増加し、1995年には35千トンとなり、2000年には48千トンと過去最高を記録した。その後再び減少し、2001年には45千トン、2003年には38千トン、2004年には34千トンになっている。これらの変動は、他魚種の漁獲状況やロシアによる漁獲量の変動の影響を強く受けていると考えられる。

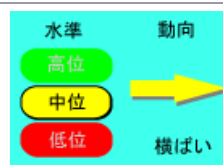
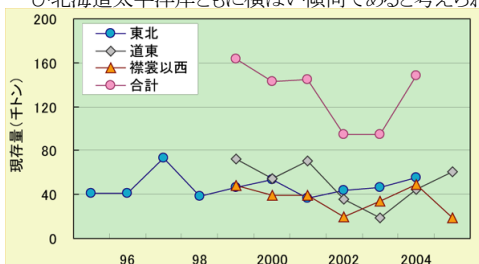


資源評価法

東北および北海道の太平洋側の陸棚斜面域において、主な分布水深帯である水深350～900mで実施した着底トロール調査の結果を基に、面積密度法により現存量を算出した。

資源状態

現存量調査の結果から、資源は比較的安定していると考えられる。直近年の現存量は東北海域では過去10年間で2番目に多く、北海道の太平洋側では過去7年間で5番目に多かった。資源水準は全体として中位水準にあると考えられる。また、動向は東北海域および北海道太平洋岸ともに横ばい傾向であると考えられる。



管理方策

資源は複数年に一度発生する卓越年級により支えられている。成長が遅く比較的長寿であるため、一度親魚が減少すると回復が困難であると考えられる。そのため、親魚量を維持することを管理目標とした。ABCは過去5年間の平均漁獲量に近年の変化率を乗じて算出した。

	2006年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	39千トン	0.95Cave5-yr	-	-

ABCtarget	31千トン	$0.8 \cdot 0.95 \text{Cave5-yr}$	-	-
-----------	-------	----------------------------------	---	---

資源評価のまとめ

- 資源水準は中位、動向は横ばい傾向にある
- 若齢魚の発生には大きな年変化がある

管理方策のまとめ

- 成長が遅く、比較的長寿であるため、親魚量を維持する必要がある
- 若齢魚を含めた今後の資源動向に注意が必要

資源評価は毎年更新されます。